

旧綱ノ瀬橋梁及び第三五ヶ瀬川橋梁の国の重要文化財指定について

(1) 名称 きゅうつなのせきょうりょう だいさんごかせがわきょうりょう  
 旧綱ノ瀬橋梁及び第三五ヶ瀬川橋梁  
きゅうつなのせきょうりょう きゅうだいさんごかせがわきょうりょう  
 (旧綱ノ瀬橋梁、旧第三五ヶ瀬川橋梁 2基)

(2) 所在地及び所有者 延岡市、日之影町

(3) 概要

①旧綱ノ瀬橋梁について

旧綱ノ瀬橋梁は、TR高千穂鉄道・亀ヶ崎駅～槇峰駅間の五ヶ瀬川とその支流である綱ノ瀬川の合流地点に架かり、昭和12年（1937）に完成した全長約418mの鉄道橋である。大小のコンクリートアーチからなり、鉄筋コンクリートの大アーチ1連と、無筋コンクリートアーチ42連の計43連のアーチで構成されており、コンクリート橋として初めてケーブルエレクション工法（部材の運搬をケーブルクレーンで行いながら架橋し、最後に接続部を閉合する）が採用されている。



(写真提供 延岡市文化課)

## ②旧第三五ヶ瀬川橋梁について

旧第三五ヶ瀬川橋梁は、TR高千穂鉄道の吾味駅に近い五ヶ瀬川本流に架かり、昭和14年頃に完成した全長約268mの鉄道橋で、V型鉄筋コンクリート連続ラーメンと鋼製トラス橋とを組み合わせた構造となっている。



(写真提供 日之影町教育課)

※これら旧綱ノ瀬橋梁及び旧第三五ヶ瀬川橋梁をはじめとする高千穂鉄道・日之影線の主要橋梁の設計施工には、コンクリート工学の権威であった九州帝国大学教授の吉田徳次郎博士の指導のもと、日本の土木技術を支えてきた人々の活躍があったとされる。鋼材使用が制限される中で、当時の鉄道省が最先端の技術を駆使して完成させたものであり、近代コンクリート構造物の技術的到達点の一つを示す。